

竹 中 治 堅 教 授

役 職：政策研究センター所長補佐

専門分野：比較政治、国際政治経済

学 位：Ph.D. (政治学) (スタンフォード大学)

略 歴：1993年東京大学法学部卒、大蔵省入省、98年スタンフォード大学政治学部博士課程修了(Ph.D.取得)、同年中央省庁等改革推進本部事務局、99年本学助教授、2004年本学政策情報研究センター長、図書館長(06年まで)、07年本学准教授。10年本学教授。

1. 業 績 (A)

(1) 雑誌論文 (単著)

- * 竹中治堅「日本の議院内閣制と安倍内閣の行方：ウェストミンスター化を拒む『壁』」
nippon.com.2013年8月5日
<http://www.nippon.com/ja/in-depth/a02301/>

(2) 図 書 (共著)

- * 竹中治堅「民主党政権と日本の議院内閣制」139-180頁(飯尾潤編『政権交代と政党政治』中央公論新社、2013年10月)

(3) 学会発表

- * 竹中 治堅「議院内閣制の下における参議院」憲法理論研究会ミニシンポジウム、2013年7月20日。

2. 助成金等による研究

- * 科学研究費補助金(基盤研究(C))「首相の指導力に対する国会議事日程決定権限や首相の補佐体制の影響に関する実証的研究」(代表者)
- * 科学研究費補助金(基盤研究(B))「民営化の戦後政治史の総合的研究」(分担者)
- * サントリー文化財団「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」「政権交代が政策の継続性に及ぼす影響に関する研究」(代表者)
- * 電気通信普及事業財団 研究調査助成「インターネットなど発達した電気通信技術が日本政治に及ぼす影響」(代表者)

3. 教 育

(1) 講 義

- * 日本政治の理論分析(2013年度春大学期)
政治を分析する様々な理論を紹介し、政権交代による政治過程の変化も踏まえ、現代日本政治をいかに分析できるかについて議論した。
- * Comparative Politics(2013年度秋大学期)
比較政治についての様々な理論を紹介し、民主主義のものの政治過程をどのように分析できるかについて議論した。
- * 現代日本の社会システム(2013年度春大学期)
日本の統治システムの特徴など、日本政治の基本的な事項について紹介した。

(2) 論文指導

修士課程

- * Young Leaders Program 3名、主指導、うち2名修士号取得
博士課程
- * 安全保障プログラム1名、副査
- * 政策プロフェッショナル4名、副査、うち1名博士号取得

4. 管理・運営への関与

(1) 委員会

- * 政策情報研究センター運営調査会委員
- * 政策研究センター所長補佐会委員
- * 図書館運営委員会
- * Young Leaders Program Committee
- * 政策プロフェッショナルプログラム・コミティー
- * 修士課程 公共政策プログラム・コミティー
- * One-year Master's Program of Public Policy (MP1) Committee
- * Two-year Master's Program of Public Policy (MP2) Committee

(2) その他

- * 公共政策プログラム入試 採点 2013年11月13日
- * Young Leaders Program インタビュー 2014年2月21日ブルガリア人1名、ルーマニア人、スロバキア人1名、2月27日パキスタン人1名。
- * リサーチプロジェクト「政権交代が政策の継続性に及ぼす影響に関する研究」プロジェクトリーダー
- * 政策研究センター所長補佐
- * 図書選定委員 (政治グループ)

5. 社会的貢献 (A)

(1) 他大学・研究所等における活動

非常勤講師

- * 青山学院大学国際政治経済学部非常勤講師
講義「比較政治Ⅱ」担当 (全13回 2013年度前期)
- * 東京大学教養学部前期課程非常勤講師
講義「日本の政治」担当 (全13回 2013年度前期)

(2) 財団法人等における活動

- * 一般財団法人ニッポンドットコム「nippon.com」、編集委員会委員

(3) 審議会等における活動

- * 参議院選挙制度協議会 参考人 2013年11月1日。

(3) その他

- * 日本財団、グレートブリテン笹川財団、チャタムハウス共催「日英グローバルセミナー」
企画委員会委員

6. 社会的貢献 (B)

(1) ジャーナリズムでの発言

① 電波メディア

- * コメント「1票の格差 世界でも」『日本経済新聞』2013年4月8日

- * コメント「岐路 2013 参院選 参議院なぜあるの」『中日新聞』2013 年 6 月 7 日。
- * 寄稿「「ねじれ」国会解消への一歩：自民党、都議選大勝」『ヤフー！ニュース個人』2013 年 6 月 24 日。
- * コメント「参院選：『もっと注目を』」『毎日新聞』2013 年 6 月 26 日。
- * インタビュー「参院選何が問われるか」『日本経済新聞』2013 年 6 月 30 日
- * コメント「参院選公示 ネット舌戦も開幕」『読売新聞』2013 年 7 月 4 日。
- * コメント「参院選新時代の一票（下）」『日本経済新聞』2013 年 7 月 4 日。
- * 寄稿「参議院選挙の争点：安倍内閣は改革を推進できるのか」『ヤフー！ニュース個人』2013 年 7 月 6 日。
- * 寄稿「参議院選挙無効訴訟」『ヤフー！ニュース個人』2013 年 7 月 22 日。
- * コメント「動くか国会改革（下）」『日本経済新聞』2013 年 8 月 18 日。
- * 寄稿「臨時国会を観る：首相の権限拡大」『ヤフー！ニュース個人』2013 年 10 月 14 日。
- * 寄稿「小泉劇場復活：『原発即時ゼロ』」『ヤフー！ニュース個人』2013 年 11 月 13 日。
- * 寄稿「1 票の格差訴訟」『共同通信』2013 年 11 月 21 日配信『佐賀新聞』などに掲載
- * 寄稿「2014 年度予算は緊縮財政？」『ヤフー！ニュース個人』2013 年 12 月 23 日。
- ② 映像メディア（含むラジオ）
- * 「プライムニュース」『ねじれ解消...参議院選挙後の政治の行方を問う』『BS フジ』2013 年 7 月 23 日 20 時～22 時。
- * 「プライムニュース」『参院選無効判決波紋』『BS フジ』2013 年 12 月 2 日（前半） 20 時～21 時。
- * 「BBC World News」, Duncan Bartlett 氏とのインタビュー2014 年 2 月 11 日。
- (2) 講演会, 座談会, 会議出席
- * 討論会出席「Tadashi Yamamoto Memorial Seminar: Japan's Political Change and the US-Japan Alliance」2013 年 5 月 2 日 Council on Foreign Relations (Washington DC)
- * 討論会出席「地方のからのガバナンス」2013 年 6 月 29 日 北海道大学公共政策大学院（札幌）。
- * 勉強会講師「Waiting for the Third Arrow」2013 年 10 月 22 日 BNP パリバ証券。
- * 対談出席「熊谷俊人千葉市市長との対談」2013 年 12 月 19 日 千葉市産業振興財団（千葉市）
- * 講演会「The Future of Abenomics- A Political Perspective」2014 年 2 月 11 日, Daiwa Anglo Japanese Foundation（ロンドン）。
- * 勉強会講師「Political Institutions, Economic Reform and Fiscal Deficit」2014 年 2 月 24 日経済広報センター